



今号の「輝く学年団を訪ねて」で紹介した宮城県柴田高校は、2021年3月開催の第93回選抜高等学校野球大会出場校です。同じく青春の日々に白球を追った私にとって（最後の大会は逆転サヨナラで1回戦敗退）、野球部部长でもある2学年主任の佐藤瞬先生は、この春に「聖地」でノックを打った、今風に言えば「神」。校庭から時折聞こえる打球音をBGMに、野球の質問はぐつとこらえ、取材を遂行しました。

取材時は、夏の甲子園の真っ最中、新型コロナウイルス感染による出場辞退の報に胸が痛みました。あらゆる教育活動で、先生、生徒一丸で細心の注意を払っても、リスクはゼロにはならない。でも、時間は待つてはくれない。どうすればよいのか。問いかけてもただ青いばかりの空。球児の味方であるはずの青い空に、拡大防止に努めることを改めて誓い、終息を祈りました。（河野）



VIEWnext  
電子ブック 高校版は

電子ブックで閲覧可能です

『VIEW next』高校版、『VIEW21』高校版2020年4月号以降の記事は、電子ブックでご覧いただけます。ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでご確認ください。  
HOME → 教育情報 → 高校向け → 情報誌最新号

<https://berd.benesse.jp>

VIEWnext

高校版 2021年12月号

12月15日発行  
(予定)

『VIEW next』高校版は  
年6回の発行です

先生方からのご意見を  
紹介します

## Reader's VIEW

2021年8月号へのご意見

### 進路指導よりも「進路支援」の時代

8月号の特集の冒頭に描かれた「私の大切な2人の生徒のこと」に共感した。多くの学校が進路指導ストーリーをつくっているが、これからは、生徒自身が進路への思いをどれだけ描けるかが重要であり、進路指導よりも「進路支援」が必要だと感じていた。生徒が自己を把握するために必要な、自分の思いを言語化し、客観的に分析する際に教師ができる支援を考える上で、3校の実践事例は参考になった。「生徒を支援」「生徒と伴走」などの言葉が響いた。埼玉県・私立東京農業大学第三高校 小堀健一

### 大学が求める主体性とは何かを再確認

8月号の特集の課題整理で、大学が入試において、基礎学力を前提とした上で、生徒が学びや活動の事実・結果をただ述べるのではなく、事実・結果に至るまでの過程と今後の展望を自分の言葉で述べられるかどうかを評価することを改めて確認でき、安堵した。新しい入試が、成果物を持つ一部の生徒のための仕組みになってしまうことを懸念していたからだ。実践事例は、節目で振り返りの場を設け、次の行動に何をどのようになかすのかを考えさせることや、生徒同士の相互評価、優れた「マイ・ストーリー」を学年通信に載せて共有することなどが参考になった。

新潟県立長岡大手高校 金澤康雄

### すべての生徒に「マイ・ストーリー」は必要

8月号の特集の内容は、生徒の進路が多様な学校での面接指導で感じていた、生徒の発言に「マイ・ストーリー」を感じられない物足りなさを改善することにも応用できると思った。どんな生徒でも、「マイ・ストーリー」を語る素材を持っていて、短い面接練習の時間でも、対話を通じて、生徒は自分の持つ素材を再構築し、ストーリーを紡げるようになっていく。生徒の希望進路にかかわらず、言語化や対話の必要性を感じた。

千葉県立銚子商業高校 田中三郎

### 自校の「学校教育デザイン」を考えるベースに

ループリックの仕組みや重要性は理解しているが、それを作る労力を考えると、気持ちがついていけていなかった。8月号の「新課程に向けて描く『学校教育デザイン』」で紹介された東京都立第五商業高校の取り組みは、ループリックの完成度が高いだけでなく、縦横を何度も問い直し、修正し、まとめるという過程が素晴らしかった。同校の事例をベースに、自校なりのループリックを周りの教師と一緒に考えてみたいと思わせてくれた記事だった。

静岡県 匿名希望

### 生徒一人ひとりが達成感を得られる授業

8月号の「主体的・対話的で深い学び 授業実践」で紹介された北海道浦河高校の舟田彩一朗先生の授業は、深い思考に生徒を導く体育の授業をどうすれば実現することができるのか悩んでいる教師にぜひ知ってほしい内容だった。運動能力にかかわらず、生徒一人ひとりが達成感を得られるようにする工夫に感銘を受けた。千葉県・私立成田高校 佐藤杏奈